

■ 出演者

*は賛助出演ならびに団友

■コンサートマスター 三溝 健一

■第1ヴァイオリン

飯吉 麻衣子	上野 圭子
加藤 由香里	小菅 宏造
斎藤 典子	洲崎 匡
橋本 士郎	横田 幸恵
岩田 貴守*	折原 裕子*
増井 健一*	

■第2ヴァイオリン

青木 由美子	泉 紀子
小林 優樹	高松 理恵
田中 教生	石津 忠*
近藤 将弘*	田中 陽子*
平原 良晃*	

■ヴィオラ

稲田 由佳	岩下 律子
澤村 昂志	清水 哉子
中村 逸郎	古海 法雲
渡辺 みほ	キム ギョンハン*
佐藤 洋隆*	宮入 徹*

■チェロ

池田 なつき	上野 敦子
金山 美樹	佐藤 充
中務 浩	藤本 隆史
柁木 文子	水澤 由紀
村治 美代	

■コントラバス

伊藤 実沙樹	秋山 雅央
吉崎 須賀子	木口 聡*
松原 直之*	山崎 康正*

■フルート

齊藤 孝久	福田 幸久
丸山 恵理	

■オーボエ

羽賀 純子	橋本 直子
皆川 正弘	皆川 未央

■クラリネット

齊藤 直美	鈴木 和久
富田 洋加	渡辺 英雄

■ファゴット

鈴木 絢子	高須 理栄*
-------	--------

■ホルン

飯田 美由紀	笹川 修一
須田 孝義	森 真人
綿貫 英紀	

■トランペット

菅野 徳嗣	水澤 学
小倉 生里子*	

■トロンボーン

笠野 光雄	西山 瑤
松田 彰英	

■チューバ

若井 一也*

■パーカッション

稲田 善智	加藤 正之
小島 章子*	藤澤 紀章*

団長	古海	法雲
事務局長	茨木	真
インスペクター	佐藤	慎悟

■ 楽団について

1972年（昭和47年）に結成されました。当時の日本の高度経済成長に呼応するように、アマチュア音楽家の活動が全国的に活性化する流れのなか、上越においても市民オーケストラ結成の機運が高まり、地域の高校管弦楽団OBら有志が集って演奏会を開催して以来、年2回開催している定期演奏会や各方面からの依頼演奏会を通して皆様に親しまれてまいりました。

現在は指揮者に長谷川正規氏、コンサートマスターに三溝健一氏を迎えて充実した活動を展開しています。

本団では一緒に活動していただける団員を募集しております。募集パート等の詳細についてはお問合せ下さい。素敵で愉快な仲間達と素晴らしい音楽を創りましょう。団員一同、心より歓迎いたします。

■お問合せ先

Mail: mako2034@joetsu.ne.jp
Tel: 090-1606-1254（事務局長：茨木）
http://www.5a.biglobe.ne.jp/~jsovn/



■ 次回演奏会のご案内

第82回定期演奏会

日時：2019年3月24日（日）14：00 開演
会場：上越文化会館 大ホール

ボロディン / 歌劇「イーゴリ公」序曲
チャイコフスキー / 序曲「1812年」
ベートーヴェン / 交響曲第3番「英雄」



練習風景
（オーレンプラザスタジオにて）

上越交響楽団

第81回 定期演奏会

2018年9月16日（日）
14：00開演（13：30開場）

上越文化会館大ホール



Program

モーツァルト
歌劇「後宮からの逃走」序曲
メンデルスゾーン
ヴァイオリン協奏曲（Vn.独奏 牧田由起）
ブルックナー
交響曲第4番《ロマンティック》



主催／上越交響楽団

後援／上越市教育委員会 妙高市教育委員会

※未就学児をお連れのお客様は、他のお客様のご迷惑にならないようご配慮願います

ごあいさつ

上越交響楽団 団長 古海法雲

本日は当上越交響楽団の定期演奏会にお越しくださいませありがとうございます。今回はとても素敵な曲をどうぞ。

小生が中学生の頃だったと思いますが、我が家にメンデルスゾーンのヴァイオリン協奏曲の 78 回転の SP 版がありまして、手回しの蓄音機で何回か聞きました。ガーガーというようなレコードでしたが、とても素敵で綺麗な曲です。ある時テレビでこの曲を聴いて、母は「おらちのあれだね」といいます。「我が家に有るあの曲だね。」という意味でしょう。そんな思い出の名曲を牧田由起さんとともに演奏するのが嬉しくて嬉しくて。

ブルックナーの「ロマンティック」はとても難しい曲ですが、じっくり聞くと深く味わいの有る名曲です。どうぞごゆっくりお楽しみ下さい。

指揮者

Masanori Hasegawa

長谷川正規

東京藝術大学音楽学部器楽科（チューバ専攻）を卒業。同大学大学院音楽研究科修士課程修了。学部在学中に安宅賞を受賞。ソリストとして、松尾葉子指揮藝大フィルハーモニア、故岩城宏之指揮オーケストラアンサンブル・金沢等と共演。チューバ奏者として管弦楽・吹奏楽・室内楽の領域で活動するほか、指揮の活動も盛んに行っており、上越交響楽団、上越市民吹奏楽団、新潟市北区フィルハーモニー管弦楽団の定期公演をはじめ、ミュージカル「春のホタル」、オペラ「ヘンゼルとグレーテル」「愛の妙薬」「売られた花嫁」等で指揮者を務める。これまでにチューバを稲川榮一氏に師事。現在、上越教育大学大学院学校教育研究科准教授。



コンサートマスター

Ken-ichi Samizo

三溝健一

松本市出身。4 歳よりヴァイオリンを始め、片岡世界、正岡紘子、山岡耕筈、天満敦子の各氏にヴァイオリンを、東京音楽大学にて井上將興氏にヴァイオリン及び室内楽を師事。肥沼きよ、竹内邦光、丸山嘉夫、松本紀久雄、汐澤安彦の各氏にピアノ・ソルフェージュ・音楽学・指揮法を師事。大学在学中よりソロ・室内楽・オーケストラ・オペラ等、幅広く演奏活動を行う。殊に「ENSEMBLE“ 藝弦 ”(弦楽合奏)」「室内楽“EAU”(ピアノアンサンブル)」を中心に研鑽を積み現在は「音泉室内合奏団」を主軸に活動を展開、編曲も多数手掛けている。また、関東信越各地の市民・学生オーケストラと室内楽にて演奏指導と活動の発展に尽力、また初心者から専門課程の学生及び演奏家の個人レッスンなど広く後進の育成にもあたる。足立シティオーケストラ・松本交響楽団・上越交響楽団・柏崎フィルハーモニー管弦楽団、他／常任・客演コンサートマスター，副指揮者（足立・松本）。音泉室内合奏団／ソロ・コンサートマスター，音楽監督。池袋音楽学院講師。Gruppo Violini 主任講師。Musica Rospo 主幹。



ヴァイオリン

Yuki Makita

牧田由起

4 歳よりヴァイオリンを始める。全日本学生音楽コンクールヴァイオリン部門東京大会小学校の部第 3 位、中学校の部第 2 位、第 10 回日本モーツァルト音楽コンクール奨励賞、国際モーツァルトコンクール派遣者選考演奏会 2001 優勝。これまでに、高橋良之、重本佳美、故 久保田良作、勅使河原真実、辰巳明子の各氏に師事。大阪センチュリー交響楽団と共演。新潟市、上越市にてリサイタルを開催するほか、各地でのコンサートに出演。桐朋女子高等学校音楽科を経て、桐朋学園大学音楽学部を卒業。2010 年から 2018 年まで、新潟大学教育学部非常勤講師を勤める。現在、上越市に在住し、演奏活動を行っている。



プログラム＆曲目解説

■モーツァルト／歌劇「後宮からの逃走」序曲

モーツァルトがウィーンの地で最初に制作した歌劇で、ジングシュピール形式（ドイツ語による歌芝居）で書かれています。1782 年 7 月に初演されウィーンでの活動の中で最大の成功作となりました。観劇していた皇帝ヨーゼフ 2 世が、当時としては前衛的であった作品に「音符が多すぎる」と評したのに対し、モーツァルトは「必要かつ十分な音符の数でございます」と応じた話が知られています。

■メンデルスゾーン／ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 作品64

メンデルスゾーンは 26 歳にして世界最古のオーケストラであるライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団の常任指揮者に就任し、多彩な活動を展開しました。例えば、バッハ、ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンの作品を積極的にプログラムに採用し「歴史的コンサート」と銘打って聴衆の啓蒙に努めたことが知られています。また、シューベルトの未発表の交響曲「グレート」を初演するなど、埋もれた作品の紹介にも積極的でした。一方でオーケストラの質を上げるため、名手ダーヴィトをコンサートマ

舞台は 18 世紀のトルコです。トルコの太守に売られてしまったコンスタンツェを恋人のベルモンテが救出し脱出を企てる物語です。脱出は失敗しますが太守の寛大な計らいで帰国が許されます。

ピッコロ、トライアングル、シンバル、大太鼓等の楽器を駆使してトルコ的な異国の雰囲気を前面に出した序曲です。

スターを迎えることも実行しました。1844 年に作曲したヴァイオリン協奏曲はダーヴィトによって初演され、彼に献呈されています。メンデルスゾーンは当初からダーヴィトをソリストに想定しており、彼から演奏技巧上の多くのアドバイスを受けています。

曲は古典的な 3 楽章構成ですが、全体が切れ目なしに演奏され、当時としては目新しい手法を用いています。現在ではベートーヴェンやブラームスのものと並び、最も有名なヴァイオリン協奏曲のひとつとして親しまれています。

● 休憩 ●

■ブルックナー／交響曲第4番 変ホ長調「ロマンティック」

ブルックナーの作品の中で早くから価値が認められた交響曲です。完成は1874年のことでしたが、ウィーン・フィルによる試演で「第 1 楽章以外は演奏の価値無し」と酷評されたため、直ちに大改訂を施しました。初演はこの改訂版で 1881 年にハンス・リヒター指揮のウィーン・フィルによって行われ、成功を収めました。しかし、なかなか楽譜の出版が叶わず、弟子のシャルクの助言を取り込んだ改定稿が 1889 年になって出版されました。その後に音楽学者でブルックナー研究家のハースやノヴァークによって見直された校訂版が出版されています。本日の演奏はノヴァーク校訂版によります。

ブルックナー自身が当初からこの曲を「ロマンティック」と呼びました。それは、彼が敬愛していた作曲家であるワーグナーの歌劇「ローエングリン」のロマン的な世界を交響曲によって描こう考えていたことによります。ブルックナーはこの曲で中世ドイツのある街の日々の様子を表そうとしています。

第 1 楽章 「動きをもって、しかし速すぎずに」 変ホ長調 2/2 拍子
「ブルックナー開始」と称される弦楽器のトレモロがドイツの森の朝を思わせる霧を漂わせ、その上にホルンが第 1 主題を奏します。2 連符と 3 連符を組み合わせた「ブルックナーリズム」による経過動機を経て、弦楽器が穏やかな第 2 主題を示した後、第 3 主題が金管楽器の強奏で表れま

す。展開部では始めの霧が再びたちこめて輝かしい金管の響きに満たされます。

第 2 楽章 アンダンテ・クアジ・アレグレット ハ短調 4/4 拍子
弱音を付けた弦楽器の伴奏に乗ってチェロが哀歌の主題を奏します。主題の雰囲気は楽章全体にわたって重い歩みを司ります。副主題はピチカート伴奏に乗ってヴィオラが示します。後半で曲は高揚をみせますが、長調で消え入るように終わります。

第 3 楽章 「動きをもって」 変ロ長調 2/4 拍子
ドイツの森での狩りの情景が描写されています。狩りの角笛の音がとどろき勇壮な全奏へ発展します。トリオでは狩人の休息のひとときが描かれ、素朴な舞曲が流れます。その後、再び狩りの音楽が繰り返され楽章を閉じます。

第 4 楽章 「動きをもって、しかし速すぎずに」 変ホ長調 2/2 拍子
弦楽器の刻みに乗ってホルンとクラリネットが下降音型を示し、次第にクレッシェンドして、やがて下降音型の主題が全貌を表します。いくつかの主題を即興演奏風に構成して曲は進み、クライマックスを築きます。コーダは長大なクレッシェンドによるブルックナー特有のもので、最後に第 1 楽章の主題が高らかに響き渡って全曲を結びます。